

社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市南部病院

## 臨床研修プログラム概要



社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市南部病院

初期臨床教育センター

臨床研修管理委員会

# 社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市南部病院

## 【病院の概況】

### 1. 社会福祉法人 恩賜財団 済生会とは

社会福祉法人 恩賜財団 済生会は、明治44年2月11日、明治天皇より、「医療を受けることが出来ないで困っている人たちに施薬救療の途を講ずるように」というご趣旨の『済生勅語』と、下賜された基金をもとに伏見宮貞愛親王を総裁として、桂総理を会長として創立され、保健、医療、福祉の増進、向上に必要な諸事業を行ってきた。戦後は社会福祉法人 恩賜財団 済生会となり、現在は、秋篠宮親王殿下を総裁とし、東京都に本部、41都道府県に支部を置き、病院ほか施設を運営している。

### 2. 病院の沿革、特徴

昭和48年、横浜市では人口の急増に対処するために、500床規模の総合病院を横浜市内に数カ所建設する計画が立てられた。横浜市と公的法人等が共同で建設し、運営は公的法人等が行うという新しい形態を取ることが決められた。この最初の病院として南部地域が選ばれ、横浜市と恩賜財団済生会が建設し、恩賜財団済生会が運営する「社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市南部病院」が、昭和58年6月10日開院した。

現在は済生会活動目標でもある福祉医療の推進に努める一方、厚労省指定の臨床研修病院、看護師養成実習病院として、また、各学会の認定医、専門医の教育指定病院として学究活動にも力をそそいでいる。

### 3. 病院の概要

所在地 〒234-8503 神奈川県横浜市港南区港南台3丁目2番10号

(JR根岸線港南台駅下車 徒歩3分)

TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335

病院長 猿渡 力

病床数 500床

標榜診療科 総合内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓高血圧内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、血液内科、循環器内科、リウマチ・膠原病内科、精神科、小児科・新生児内科、外科、乳腺外科、形成外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、IVR科、麻酔科、救急診療科、緩和医療科、リハビリテーション科、病理診断科、歯科口腔外科 31科

医 師 数 (2024年4月現在)

医 師 187人

歯科医師 3人

研 修 医 26人

研修歯科医 2人

## 4. 診療部概要

2024年12月現在

診療科目	医師数(人)	指導医数(人)
総合内科	1	1
消化器内科	13	4
呼吸器内科	6	1
腎臓高血圧内科	7	2
糖尿病・内分泌内科	6	0
脳神経内科	4	1
リウマチ・膠原病内科	2	1
血液内科	3	1
循環器内科	10	2
精神科	2	1
小児科・新生児内科	14	2
外科	14	4
乳腺外科	3	1
形成外科	2	0
心臓血管外科	3	0
呼吸器外科	2	0
脳神経外科	2	0
整形外科	9	2
皮膚科	3	1
泌尿器科	5	0
産婦人科	11	6
眼科	3	1
耳鼻咽喉科	4	2
放射線科	6	5
麻酔科	10	1
救急診療科	4	2
リハビリテーション科	1	0
緩和医療科	2	2
病理診断科	2	2
臨床検査科	1	0
歯科口腔外科	3	2
合計	158人	45人

## 5. 特色

横浜市2次救急(母子、小児、心疾患、歯科、CPA、緊急アンギオ、緊急心カテ、緊急内視鏡等)  
ICU, CCU、人工透析、腎移植、開心術、体外衝撃波腎結石、破砕術等

## 6. 学会指定状況・診療指定認定

### 【学会指定状況】

日本内科学会教育病院  
日本消化器病学会認定施設  
日本肝臓学会認定施設  
日本大腸肛門病学会認定施設  
日本循環器学会研修施設  
日本透析医学会教育関連施設  
日本小児科学会研修施設  
日本外科学会修練施設  
日本消化器外科学会修練施設  
日本消化器内視鏡学会指導施設  
日本脳神経外科学会研修施設  
日本整形外科学会研修施設  
日本皮膚科学会研修施設  
日本泌尿器科学会教育施設  
日本産婦人科学会専攻医指導施設  
日本眼科学会研修施設  
日本耳鼻咽喉科学会研修施設  
日本医学放射線学会研修施設(修練機関)  
日本核医学会協力病院  
日本麻酔科学会研修施設  
日本病理学会認定施設  
内分泌・甲状腺外科学会認定施設  
日本アレルギー学会教育施設  
日本がん治療認定医機構研修施設  
日本環境感染学会教育施設  
日本緩和医療学会研修施設  
日本形成外科学会教育関連施設  
日本血液学会研修施設  
日本高血圧学会認定施設  
日本甲状腺学会専門医施設  
日本呼吸器学会認定施設  
日本心血管インターベンション学会研修施設  
日本精神神経学会研修施設、日本神経学会教育施設

日本乳癌学会認定施設  
日本臨床腫瘍学会研修施設 等

**【診療指定認定等】**

保険医療機関  
労災保険指定医療機関  
公害医療機関  
結核予防法指定医療機関  
DPC対象病院  
障害者自立支援法による指定自立支援医療機関（精神通院・更生・育成医療）  
生活保護法指定医療機関  
被爆者一般疾病指定医療機関  
救急医療告示病院  
災害拠点病院  
神奈川DMAT指定病院  
神奈川DMAT-L指定病院  
横浜市小児救急医療拠点病院  
地域医療支援病院  
神奈川県がん診療連携指定病院  
神奈川県難病医療支援病院  
横浜市産科拠点病院  
横浜市小児がん連携病院  
厚生労働省指定臨床研修指定病院  
日本医療機能評価機構認定病院  
国民健康保険取扱医療機関  
健康保険法指定医療機関  
特定疾患治療研究事業委託医療機関  
小児特定疾患治療研究事業委託医療機関  
身体障害者福祉法指定医  
不在者投票指定施設  
母体保護法による指定医療機関  
薬学生実務実習受入施設  
看護師等養成実習病院  
かながわ子育て応援団認定施設  
医療安全全国共同行動参加病院  
地域周産期母子医療センター  
横浜市乳がん連携病院  
特定行為研修指定研修機関

## 【臨床研修プログラムについて】

### 1. プログラムの名称

社会福祉法人<sup>財団</sup>恩賜済生会横浜市南部病院臨床研修プログラム  
プログラム番号：030259303

### 2. プログラムの目的

医師としての人格を涵養し、将来の専門分野にかかわらず、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリーケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）と、生涯にわたり自己を研鑽できるような能力を身につけさせる。また、患者の立場や意思を尊重し、患者の安全を第一に考え、その時代において最良の医療を行えるよう、プライマリーケアの習熟に加えて高度先進医療の現状と限界、さらに倫理や安全についても現場を通して学べるようなプログラムを提供する。本プログラムによって優れた医師が育ち、さらにその医師が教育や研修に携わり、ひいては横浜ならびにその周辺都市の医療レベルの向上をもたらすようなシステムの構築をめざす。

### 3. 臨床研修の目的と心構え

- (1) 大学あるいは大学院で修めた学業を、さらに臨床医として発展するために必要不可欠な知識を学び、各専門科の基本的な知識、技術の指導を受ける。我流の診療行為は厳に慎まなければならない、常に指導医との連繫を密にすること。
- (2) 学術的、かつ理想的医学のみではなく、現在の社会、行政の制約の中で、如何に疾病を予防し、かつ有効に疾患を治療するかを学ぶ。理想的医療を求めるあまり、病院の限度を越えた要求をすること、そのために他の職種に迷惑をかけぬよう心がける。
- (3) 患者は病めるものであり、そのために医療の助けを求めるが、これに応じて「医療を施すものの驕り」に陥ることなく、人間の尊厳を冒すことのない診療を行える医師となるべく修業をつむ。受持患者に関しては、その症状、治療内容に関して、何時いかなる時でも報告出来るよう把握しておく。患者および家族に対しては、その苦痛を理解し、親切に対応することは勿論であるが、不用意な発言や、粗雑な言動は慎み、重要な対話に際しては指導医の許可、同席を求めて行う。
- (4) 種々な職能の共同作業によって成り立つ一企業体としての病院にあっては、すべての働くものが平等な権利と義務と社会的評価をうけることを念頭に置き、その中にあって、おのずからチームリーダーとなりうるよう、人間性と学識を修練する。しかし、修練過程のため、不明なことは他の職種にも素直に意見を求め、教えていただくことが大切である。

### 4. プログラムの特色

- (1) 横浜市大、慶応大、東邦大の各医学部からの医師で発足し、現在も学閥にこだわらない新しいアカデミックな病院、横浜市南部地域の地域中核病院として5区約100万人を対象とした救急医療、高度先進医療、症例の豊富さが特徴である。
- (2) 横浜市立大学医学部附属病院（金沢区）、横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター（南区）の協力病院としての研修プログラムも提供する。

(3) 東邦大学医療センター大森病院、同大学大橋病院、同大学佐倉病院および社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会横浜市東部病院(救急科)、ワシン坂病院(精神科)、医療法人社団清心会藤沢病院(精神科)、医療法人誠心会 神奈川病院(精神科)、医療法人誠心会あさひの丘病院(精神科)、済生会横浜市東部病院(精神科)、国立病院機構横浜医療センター(精神科)、神奈川県立精神医療センター(精神科)と提携して2年目の選択研修のプログラム及び精神科必修研修のプログラムも提供する。※精神科は受入施設により一部1年次下期より研修する。

(4) 地域医療研修施設としては医療法人昨雲会飯塚病院附属有隣病院と社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会若草病院、社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会みすみ病院、社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会神奈川県病院がある。

## 5. 定員：各学年11名

基幹型) 1年次 11名、 2年次 11名 計22名

その他、横浜市大の協力病院として襷掛け研修医1年間協力病院より受入れ有

横浜市立大学医学部附属病院 (1年次2名、2年次2名)

横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター (1年次1名、2年次1名)

## 6. 研修医規程

- (1) 各科配属期間中は、その科の研修プログラムにもとづき、各科指導医の指示に従う。(各科「研修プログラム」は別記)
- (2) 研修医は、救急日・当直に組み込まれ、救急医療研修を行う。(別記の「研修医当直マニュアル」に従う)
- (3) 研修期間中の医療上の責任は、医師としての研修医自身が負うが、その指導責任は、配属期間中の各科指導医にある。
- (4) 勤務時間内の居場所は常に明らかにしておくこと。特殊な指示がない限り、外勤は認められない。
- (5) 院内において開催される各行事、集会、特に学術集会には、義務的に参加しなければならない。
- (6) 研修期間中、少なくとも2つ以上の学会報告、または学術論文を作成する。
- (7) 研修内容の記録をつけ、各科認定医制度、専門医制度等に適合するように整理しておく。
- (8) 研修医の勤務状態は、適時、臨床研修委員会で評価し、研修態度が不良なときは、その後の研修を許可しないことがある。
- (9) 研修医の身分は、常勤嘱託医とし、その待遇については別に定める。(「研修医就業規程」は別記)
- (10) 研修期間終了後の就学、就職については、研修医自身で決定し、当病院は研修修了の認定をする他はその責は負わない。ただし、医員の欠員があり、かつ希望する研修医の成績が優秀な場合には、入職を考慮することもある。

## 7. ローテーション計画・プログラム概要

- ・目標：厚生労働省より指示された「臨床研修の到達目標」に準拠した共通研修目標と各診療科における研修目標
- ・期間：原則として2年間とする。

## 【ローテーション】

### 1年目：【必修】

内科 24 週、救急 8 週、外科 4 週、小児科 4 週、産婦人科 4 週、麻酔科(病院必修)4 週

【選択科】4 週 院内の診療科より選択

### 2年目：【必修】救急 4 週、\*地域医療 4 週、\*精神科 4 週 \*以下病院より選択

地域医療：医療法人昨雲会飯塚病院附属有隣病院(福島県)

社会福祉法人<sup>思賜財団</sup>済生会みすみ病院(熊本県)

社会福祉法人<sup>思賜財団</sup>済生会若草病院(神奈川県内)

精神科：(神奈川県内 6 施設)

医療法人社団清心会藤沢病院

医療法人誠心会あさひの丘病院

医療法人誠心会神奈川病院

済生会横浜市東部病院

ワシン坂病院

横浜医療センター

神奈川県立精神医療センター

東邦大学医療センター大森病院(東京都)

【選択科】41 週 院内の診療科より選択

または以下の協力病院より**当院にない診療科**の選択可

(先方の受入れ状況による)

東邦大学医療センター(大森病院、大橋病院、佐倉病院)

済生会横浜市東部病院(救急科(3次救))

横浜医療センター

### 1年次

内科(24 週)	救急(8 週)	小児	産婦	外科	※麻酔	選択
----------	---------	----	----	----	-----	----

\*小児科、産婦人科、外科、麻酔科、選択科は各 4 週 ※麻酔科：病院必修

### 2年次

救急	*精神	*地域	選択(40 週)
----	-----	-----	----------

\*精神科と地域医療は協力病院での研修

### 【必修・一般外来研修】1年次・2年次共通

内科、外科、小児科、地域医療ローテイト時に並行研修 合計 2 年間 20 日以上

研修内容：紹介状を持たない初診患者あるいは紹介状を有していても臨床問題や診断が特定されていない初診患者を担当する。また地域研修においては、上記に加えて特定の臓器でなく広く慢性疾患を継続診療する外来研修を行う。



### 【オリエンテーション】

●4月1日（土日の場合は一番最初の日より）約1週間

✚ 2日間：病院全体入職者対象（入職式、全体オリエンテーション）

✚ 残り約3日間：研修医のみオリエンテーション

期間電子カルテ使用方法、\*医療安全、\*感染対策、患者医師関係、ACP、インフォームド・コンセント、BLS、保険診療、診療録記載、チーム医療・多職種連携、薬剤、各診療科における急患対応、採血・注射、院内ルールの周知

### 【勉強会・研修会】

JPTECH、BLS、医療倫理講習会、皮膚縫合、医療機器、緩和ケア講習会、地域連携、CPC、予防医療、虐待、社会復帰支援等

外科縫合勉強会、CV 穿刺、エコー、ME 機器研修

年間院内全員参加対象：医療安全、感染の勉強会に参加する。

## 8. 管理・運営・指導体制

### 指導医・指導者

#### 【責任者】

- ・総括責任者：初期臨床研修センター長 菱木 智
- ・プログラム責任者：初期臨床教育センター長 菱木 智
- ・副プログラム責任者：救急診療科主任部長 豊田 洋

各診療科ならびに協力型病院、協力施設に指導医（施設では指導者）をおく。医長以上で、プライマリーケアに習熟し、患者やコメディカルから信頼を集め、かつ教育熱心な医師が指導医となる。

指導医の選出は研修管理委員会で行い、院長が委嘱する。指導医の評価は各診療科あるいは協力病院、施設の長と総括指導責任者が行い、修了判定前までに管理者である院長に報告する。

#### 【指導医規定】

指導医とは、研修医を指導する医師であり、臨床研修を行う病院の常勤の医師であって、研修医に対する指導を行うために必要な経験及び能力を有していなければならない。

原則 7 年以上の臨床経験を有し、プライマリ・ケアの指導方法等に関する講習会（指導医講習会）を受講していることが必須である。原則として、内科、救急部門、外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科及び一般外来の各診療科並びに当該研修プログラムが独自に必修としている診療科に配置されており、勤務体制上指導時間を十分に確保できることが求められる。

研修医 5 人に対して指導医が 1 人以上配置されていることが必要であるが、地域医療に対する配慮から、地域医療と同時に行う一般外来の研修は、指導医を含め、当該地域医療の指導体制が整っていることで差し支えない。なお、研修医による指導医の評価についても、指導医の資質向上に資すると考えられることから、強く推奨される。指導医の役割を下記に示す。

1. 研修医指導の責任者又は管理者であり、研修医を直接指導する場合だけでなく、いわゆる「屋根瓦

方式」で指導医の指導監督の下、上級医が研修医を直接指導できることも想定している。

2. 研修医が担当した患者の病歴や手術記録を作成するよう指導する。
3. 担当する分野・診療科の研修期間中、研修医ごとに到達目標の達成状況を把握し、研修医に対する指導を行い、担当する分野における研修期間の終了後に、研修医評価票を用いて評価し、その結果をプログラム責任者に報告する。
4. 研修医の評価に当たって、当該研修医の指導を行った又は共に業務を行った医師、看護師その他の職員と情報を共有することが望ましい。
5. 研修医と十分意思疎通を図り、実際の状況と評価に乖離が生じないように努める。
6. 指導医を始めとする医師及び医師以外の医療職は、各分野・診療科のローテーション終了時に、研修医評価票を用いて到達目標の達成度を評価し、研修管理委員会に提出する。
7. 研修医自身が、インターネットを用いた評価システム等を活用して、研修の進捗状況を把握するよう指導する。
8. 定期的に研修の進捗状況を研修医に知らせ、研修医及び指導スタッフ間で評価結果を共有し、より効果的な研修へとつなげる。

#### 初期臨床教育センター・指導責任者

初期臨床教育センター	名前	診療科	備考
センター長	菱木 智	総合内科	医科プログラム責任者
副センター長	青木 紀昭	歯科口腔外科	歯科プログラム責任者
	遠藤 方哉	産婦人科	統括教育センター長
	豊田 洋	救急診療科	医科副プログラム責任者
	猿渡 力	循環器内科	管理者
	藤田 浩之	血液内科	
	宮沢 直幹	呼吸器内科	
	岩本 彩雄	腎臓高血圧内科	
	大久保 忠信	リマチ・膠原病内科	
	杉森 一哉	消化器内科	
	中江 啓晴	脳神経内科	
	南 太一	糖尿病内分泌内科	
	虫明 寛行	外科	
	入江 友哉	麻酔科	
	田中 文子	小児科・新生児内科	
	吉田 達也	乳腺外科	
	安藤 由菜	形成外科	
	小林 秀郎	整形外科	
	山本 馨	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
	櫛 裕史	脳神経外科	

	矢吹 和朗	眼科	
	野間 大督	呼吸器外科	
	富永 訓央	心臓血管外科	
	向所 純子	皮膚科	
	二本松 宏美	臨床検査科	
	鈴木 将裕	精神科	
	鈴木 康太郎	泌尿器科	
	齊藤 公彦	放射線科	
	土井 千春	緩和医療科	
	中山 崇	病理診断科	
	松宮 巧	リハビリテーション科	

### 指導者

看護部長	三浦百合子	6西病棟	原田晃輔
手術室担当	渡邊昌子	5東病棟	齊藤理恵
8東病棟	田邊優子	5西病棟	神保美香
8西病棟	岡本愛	ICU	長田登志美
7東病棟	寺沢佳緒里	3東病棟	山崎亜矢子
7西病棟	松井弘子	3西病棟	細野涼子
6東病棟	佐藤織慮	救急外来	河原崎麻美
感染管理	岡部直子	医療安全管理	関根美保
薬剤部	加藤一郎	栄養部	富樫政彦
放射線部	松田英人	臨床検査部	齊藤広将
ME	松田孝志	リハビリテーション	杉山眞二郎

## 研修管理委員会

プログラムの管理、評価、改善を行うため、また各々の研修医の研修状況を把握し総合的に管理するために、恩賜財団済生会横浜市南部病院に研修管理委員会を設置する。その構成については規程に基づくものとする。委員会は、定期的に関き、本プログラムに関わるすべての問題について検討する。

氏名	施設	役職	備考
猿渡 力	済生会横浜市南部病院	院長、循環器内科主任部長	委員長
菱木 智	済生会横浜市南部病院	初期臨床教育センター長、総合内科主任部長	副委員長、プログラム責任者
遠藤 方哉	済生会横浜市南部病院	副院長、産婦人科主任部長	
藤田 浩之	済生会横浜市南部病院	副院長、血液内科主任部長	
豊田 洋	済生会横浜市南部病院	診療部長、救急診療科主任部長	副プログラム責任者
鈴木 康太郎	済生会横浜市南部病院	診療部長、泌尿器科主任部長	
虫明 寛行	済生会横浜市南部病院	診療部長、外科主任部長	
田中 文子	済生会横浜市南部病院	小児科・新生児内科主任部長	
三浦 百合子	済生会横浜市南部病院	看護部長	
平本 朋浩	済生会横浜市南部病院	事務部長	
白井 佑賢	済生会横浜市南部病院	初期臨床研修医代表（2年次初期臨床研修医）	2年次研修医リーダー
夏田 悟	ワシン坂病院	院長	
佐藤 博信	済生会若草病院	院長	
高井 雄二郎	東邦大学医学部	卒後臨床研修／生涯教育センター長	
酒井 謙	東邦大学医療センター大森病院	副院長	
高橋 啓	東邦大学医療センター大橋病院	副院長、教育支援管理部長	
松岡 克善	東邦大学医療センター佐倉病院	院長補佐	
丸谷 雅人	飯塚病院附属有隣病院	院長	
吉岡 正一	済生会みすみ病院	院長	
清水 正幸	済生会横浜市東部病院	救急科センター 副部長	
臼井 州樹	済生会神奈川県病院	糖尿病内分泌内科部長	
林 美穂	医療法人社団清心会藤沢病院	研修担当医長	
森 一和	医療法人誠心会神奈川病院	院長	
福島 端	医療法人誠心会あさひの丘病院	院長	
平井 耕太郎	横浜医療センター	教育研修部長	
櫻井 清二	横浜市消防局港南消防署	消防署長消防正監	

## 9. 参加施設

基幹型病院: 社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会横浜市南部病院

協力型病院: 東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター大橋病院、

東邦大学医療センター佐倉病院、ワシン坂病院、社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会横浜市東部病院、

国立病院機構横浜医療センター

社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会若草病院、医療法人社団清心会藤沢病院、医療法人誠心会神奈川病院、

神奈川県立精神医療センター

協力施設: 社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会神奈川県病院、医療法人昨雲会飯塚病院附属有隣病院、

研修実施責任者・指導医

■東邦大学医療センター大森病院

総合診療・急病センター・内科	瓜田 純久
消化器内科・内科	松田 尚久
循環器内科・内科	池田 隆徳
呼吸器内科・内科	岸 一馬
糖尿 代謝 内分泌科・内科	弘世 貴久
脳神経内科・内科	狩野 修
血液・腫瘍科・内科	竹林 ちあき
膠原病科・内科	南木 敏宏
消化器外科・外科・救急	船橋 公彦
心臓血管外科・外科	藤井 毅郎
呼吸器外科・外科	伊豫田 明
小児外科・外科	高橋 正貴
乳腺 内分泌外科・外科	緒方 秀昭
脳神経外科	周郷 延雄
整形外科	高橋 寛
泌尿器科	中島 耕一
耳鼻咽喉科	和田 弘太
眼科	堀 裕一
皮膚科	石河 晃
形成外科	荻野 晶弘
腎センター(内科)・内科	酒井 謙
腎センター(外科)	村松 真樹
救命救急センター・救急	鈴木 銀河
麻酔科	武田 吉正
小児科・救急	高月 晋一
新生児科・救急	増本 健一
精神神経科	根本 隆洋
心療内科	端詰 勝敬
放射線科	堀 正明
リハビリテーション科	大国 生幸
臨床検査部	盛田 俊介

病理診断科(CPC)	栃木 直文
東洋医学科	田中 耕一郎
臨床生理機能検査部	久武 真二

■東邦大学医療センター大橋病院

消化器内科・内科	渡邊 学
循環器内科・内科	原 英彦
呼吸器内科・内科	松瀬 厚人
糖尿病 代謝 内科 内科	大平 征宏
脳神経内科・内科	杉本 英樹
膠原病リウマチ科・内科	亀田 秀人
腎臓内科・内科	常喜 信彦
外科	斎田 芳久
心臓血管外科・外科	尾崎 重之
脳神経外科・外科	岩淵 聡
整形外科・外科	武者 芳朗
泌尿器科	関戸 哲利
耳鼻咽喉科	吉川 衛
眼科	石田 政弘
皮膚科	福田 英嗣
放射線科	五味 達哉
形成外科	平田 晶子
救急・外科	萩原 令彦
救急・循環器内科・内科	橋本 剛
救急・脳神経外科・外科	平元 侑
麻酔科・救急	小竹 良文
小児科	渡邊 美砂
産婦人科	田中 京子
精神神経科	大岡 美奈子
臨床検査部・脳神経外科・外科	中山 晴雄
病理診断科(CPC)	高橋 啓

東邦大学医療センター佐倉病院

消化器内科・内科・内科救急	松岡 克善
循環器内科・内科・内科救急・生理機能検査部	木下 利雄

循環器内科・内科・内科救急	美甘 周史
呼吸器内科・内科・内科救急	松澤 康雄
糖尿病 内分泌 代謝・内科・内科救急	齋木 厚人
脳神経内科・内科・内科救急	花城 里依
膠原病科・内科・内科救急	金子 開知
腎臓内科・内科・内科救急	大橋 靖
消化器外科・外科・外科救急	大城 崇司
心臓血管外科・外科・外科救急	本村 昇
呼吸器外科・外科・外科救急	佐野 厚
乳腺内分泌外科・外科・外科救急	榊原 雅裕
脳神経外科・外科救急	根本 匡章
整形外科・外科救急	中川 晃一
泌尿器科・外科救急	鈴木 啓悦
耳鼻咽喉科	牛尾 宗貴
眼科	八木 文彦
皮膚科	樋口 哲也
放射線科	寺田 一志
形成外科	山崎 俊
救急部	一林 亮
麻酔科・救急	北村 享之
小児科	金村 英秋
産婦人科	高島 明子
精神科	小山 文彦
臨床検査部・糖尿病 内分泌 代謝・内科・内科救急	清水 直美
病理診断科(CPC)	蛭田 啓之

ワシン坂病院

精神医学全般	夏田 悟
--------	------

済生会横浜市東部病院

救急科	清水 正幸
精神科	辻野 尚久

国立病院機構横浜医療センター

精神科	古野 拓
-----	------

社会福祉法人<sup>皇興</sup><sub>財団</sub> 済生会若草病院

地域医療	岩澤 祐二
------	-------

医療法人社団清心会藤沢病院

精神科	林 美穂
-----	------

医療法人誠心会神奈川病院

精神医学全般	森 一和
--------	------

神奈川県立精神医療センター

精神科	田口 寿子
-----	-------

社会福祉法人<sup>皇興</sup><sub>財団</sub> 済生会神奈川県病院

地域医療	森 俊樹
------	------

医療法人昨雲会飯塚病院附属有隣病院

地域医療	丸谷 雅人
------	-------

社会福祉法人<sup>皇興</sup><sub>財団</sub> 済生会みすみ病院

地域医療	吉岡 正一
------	-------

医療法人誠心会あさひの丘病院

精神科	福島 端
-----	------

研修医評価については PG-EPOC (EPOC2) オンライン研修評価システムを利用する。

第三者評価(指導者)・外部施設評価 紙面による評価(管理部門にて代行入力)

## 10. 評価方法

●経験すべき症候(29 症候)、および経験すべき疾病・病態(26 疾病・病態)について

研修を行った事実の確認を行うため日常業務において作成する病歴要約を確認する必要がある。

病歴要約には、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン(診断、治療、教育)、考察等を含むことが必要である。

病歴要約に記載された患者氏名、患者 ID 番号等は同定不可能とした上で記録を残す。

「経験すべき疾病・病態」の中の少なくとも 1 症例は、外科手術に至った症例を選択し、病歴要約には必ず手術要約を含めることが必要である。

### 経験すべき症候 -29 症候-

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。





## 12. 研修終了後の進路

この研修ではプライマリーケアの知識・技術・態度の習得が中心となる。研修修了後は当院で引き続き後期研修に進むことも可能であり、横浜市大、東邦大学など当院以外のコースを斡旋することも可能である。

2020年度	2021年度	2022年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市立大学 旧第二内科 (藤沢市民病院) (済生会横浜市南部病院) (横須賀市立市民病院)</li> <li>・横浜市立大学 呼吸器病学教室 (市民総合医療センター)</li> <li>・横浜市立大学 消化器内科学教室 (三井記念病院)</li> <li>・横浜市立大学 神経内科学・脳卒中医学教室 (横浜市立大学附属病院)</li> <li>・横浜市立大学 産婦人科学教室 (市民総合医療センター)</li> <li>・横浜市立大学 眼科学教室 (市民総合医療センター)</li> <li>・横浜市立大学 耳鼻咽喉科教室 (済生会横浜市南部病院)</li> <li>・横浜市立大学 放射線診断学教室 (横浜市立大学附属病院)</li> <li>・東京医科歯科大学 (総合病院土浦協同病院)</li> <li>・JADECOM (東京ベイ浦安市川医療センター)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市立大学 神経内科学・脳卒中医学教室 (藤沢市民病院)</li> <li>・横浜市立大学 呼吸器病学教室 (市民総合医療センター)</li> <li>・横浜市立大学 腎臓内科教室 (済生会横浜市南部病院) ”</li> <li>・横浜市立大学 眼科学教室 (横浜市立大学附属病院)</li> <li>・横浜市立大学 内分泌糖尿病内科学教室 (市民総合医療センター) ”</li> <li>・横浜市立大学 皮膚科教室 (横浜市立市民病院)</li> <li>・東京医科歯科大学 呼吸器内科 (武蔵野赤十字病院)</li> <li>・東京医科歯科大学 腎臓内科</li> <li>・日本医科大学 腎臓内科学教室 (日本医科大学付属病院) ”</li> <li>・JADECOM (東京北医療センター)</li> <li>・北里大学 産婦人科 (北里大学病院)</li> <li>・東京大学 皮膚科学教室 (国際医療福祉大学市川病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市立大学 麻酔科学 (市民総合医療センター) (市立大学附属病院) (横浜市民病院)</li> <li>・横浜市立大学 循環器内科学 (市民総合医療センター)</li> <li>・横浜市立大学 血液・免疫・感染症内科学 (市民総合医療センター 血内) (市立大学附属病院 リウマチ)</li> <li>・横浜市立大学 産婦人科学 (済生会横浜市南部病院)</li> <li>・横浜市立大学 腎臓内科学 (秦野赤十字病院) (済生会横浜市南部病院)</li> <li>・横浜市立大学 外科治療学 (市立大学附属病院)</li> <li>・藤が丘こころのクリニック</li> </ul>

### 13. 募集・選抜

募集要項を公開し全国に公募する。

マッチング協議会に参加し、マッチングにて選抜をする。

毎年8月から9月に選抜試験(書類審査、大学教員からの推薦状、筆記試験、面接)を実施予定。

詳細は毎年6月上旬にホームページへ掲載する。

### 14. 連絡先

〒234-0054

横浜市港南区港南台 3-2-10

社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会横浜市南部病院 人材開発室 逸見 緑

電話 045-832-1111 Fax 045-832-8335

## 【研修医就業規程】

**第1条** この規程は、常勤嘱託職員として勤務する臨床研修医の就業に関し必要な事項を定めるものとし、この規程に定めない事項については「社会福祉法人<sup>財団</sup>済生会横浜市南部病院就業規則(以下「就業規則」という。)」によるものとする。

**第2条** 有給休暇は、「就業規則」に基づき与える。

**第3条** 給与は次表に定めるもののみを支給し、その支給方法は、「就業規則」による。

種 類		支 給 額 等	
研 修 手 当	1年次	基本手当	310,000円/月
		賞 与	850,000円/年(昨年度実績)
	2年次	基本手当	310,000円/月
		賞 与	850,000円/年(昨年度実績)
手 当			
夜勤手当	1年次	6,000円/回	
	2年次	10,000円/回	
年末年始割増料		規定による額	
時間外手当・休日手当		就業規定の定める額	
通勤手当		寮以外 通勤に必要な交通手段にかかる費用	
寮		有)徒歩10分程度 寮費 ¥35,000/月 ※自身で家を借りるまたは実家から通う場合は家賃補助なし	

## 第4条

〈勤務時間について〉

勤務時間	平日 8:30~17:15 日直:月1回程度、当直:月4回程度 時間外勤務:有(診療科による) 休憩時間:1時間(原則12時-13時 状況により前後あり)
休日・休暇	土曜、日曜、祝日、年次有給休暇(初年度11日)、健康促進休暇(6日)、 年末年始休暇、 慶事休暇、他特別休暇等、当院規程による休暇

## 第5条 保険関係

社会保険・労働保険関係	公的医療保険（組合健康保険） 公的年金保険（厚生年金） 労働者災害補償保険法の適用（有） 国家・地方公務員災害補償法の適用（無） 雇用保険（有）
医師賠償責任保険関係	個人加入必須
健康管理	職員健康診断として採血、採尿は年2回、胸部X線撮影は年2回行う。 職員健康管理室を設置し、職員支援を行う

## 第6条 その他

外部の研修活動	学会、研究会等への参加：可 学会、研究会等への参加費用支給の有無：有  ※通勤手当以外の旅費は原則として病院の認めたものについて支給する（規程集あり）。
外部活動	アルバイトは禁止する。
妊娠・出産・育児、介護 傷病等に関する施設 及び取組	産・育休制度、医師短時間勤務制度、院内保育園、妊娠中の当直免除等あり 職員健康管理室（職員検診、健康管理、メンタル、ハラスメント相談等） 研修中断・休止・再開
病院内の個室	病院内に研修医用が1室ある。（宿直室は別途有）

2024年12月15日修正